

# 読賣新聞

## 南海トラフ沿い 確率増

### 高知73% 静岡68%

### 30年内 6弱以上

政府の地震調査委員会は10日、今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布を示した2016年版「全国地震動予測地図」を公表した。静岡県から四国沖にかけての南海トラフ巨大地震の震源域近くでは、前回の14年版より確率が軒並み1.5〜2.2倍上がり、高知市で73%、静岡市で68%など高確率となった。平田直委員長は「確率が0%の地域はなく、どこでも大地震が起こる恐れがある」と話している。△詳細29面、関連記事34面▽

委員会によると、南海トラフ巨大地震の震源域近くの確率が上がったのは2年の時間経過を踏まえた結果の発生が近づいていること

を示している」と話す。

また今回、関東地方周辺で活断層の地震発生確率を詳しく見直し、長野県を通る「糸魚川―静岡構造線断層帯」で発生確率が変わった。同県中部の安曇野市

は確率が全国で最も大きく上がり、前回より10.4倍高い29.5%。一方、長野市などの確率は下がった。47都道府県庁所在地の市庁舎(東京は都庁)周辺で、

最も確率が高かったのは千葉市で、前回と同じ85%。相模湾から房総半島沖に延びる相模トラフで想定される大地震を反映した。

一方、熊本市では、4月に起きた熊本地震の影響は反映されず、同0.2倍減

都道府県庁所在地	2016年	14年との差
札幌	0.92	0.0
仙台	5.0	0.4
盛岡	4.2	0.0
仙台	5.8	0.0
秋田	7.4	0.0
山形	3.6	0.0
福島	6.7	0.0
水戸	81.0	0.0
宇都宮	13.0	0.0
前橋	6.9	0.2
さいたま	55.0	0.0
千葉	85.0	0.0
東京	47.0	0.0
横浜	81.0	▼1.0
新潟	13.0	0.0
富山	5.2	▼2.0
金沢	6.5	0.0
福井	12.0	0.0
甲府	48.0	▼2.0
長野	5.5	▼7.5
岐阜	27.0	1.0
静岡	68.0	2.0
名古屋	45.0	1.0
津	62.0	2.0
大津	11.0	0.0
京都	13.0	0.0
大阪	55.0	1.0
神戸	45.0	2.0
奈良	61.0	2.0
和歌山	57.0	2.0
鳥取	5.2	0.0
松江	2.1	0.0
岡山	41.0	1.0
広島	22.0	0.0
山口	4.5	0.0
徳島	71.0	2.0
高松	61.0	2.0
松山	44.0	2.0
高知	73.0	2.0
福岡	8.1	▼0.2
佐賀	8.2	0.0
長崎	2.6	▼0.2
熊本	7.6	▼0.2
大分	55.0	1.0
宮崎	43.0	0.0
鹿児島	18.0	1.0
那覇	20.0	0.0

※東京は東京都庁周辺。他は市役所周辺。2016年版は14年版から計算手法を変えたため、同じ手法で14年の数値を修正して比べた。▼はマイナス

主要都市の中心部で今後30年以内に震度6弱以上で揺れる確率(%)

全国地震動予測地図 今後30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率などを示した地図。確率は0.1〜3%未満が「やや高い」、3%以上は「高い」と区分され、色分けされる。地図は、活断層や海溝からの距離や地盤の強さなどを踏まえ、政府の地震調査委員会が1、2年ごとに公表する。地図のほか、都道府県庁所在地の市庁舎(東京は都庁)周辺と前回の地図より大きく変化した地点の確率の数値も発表している。16年版は同年1月1日時点のデータを基に作成された。

26%は100年に1度の頻度で「震度6弱以上の揺れに見舞われる」と想定されている。

全国各地の確率は、防災科学技術研究所がウェブサイト(http://www.jshis.bosai.go.jp/map)で公開している。